

鶏 肉 情 勢

項 目			内 容	実 績										
供給	1. 国内		(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和7年1月末実施)によると、12月の推計実績は処理羽数67,605千羽(前年比99.1%)、処理重量206.9千ﾄﾝ(同99.9%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は前月予測から2.4%上方修正、処理重量は0.8%上方修正となった。関東以西のエリアにて前年から処理羽数を落としているようだ。	生産状況										
			単位:千羽、千ﾄﾝ、%											
			R6年累計(推計)		R6年12月推計実績		R7年1月計画		R7年2月計画		R7年3月計画			
		数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比			
	入雛羽数	791,537	101.1%	69,228	98.9%	66,056	100.3%	58,098	96.8%	62,632	98.2%			
	処理羽数	750,759	100.9%	67,605	99.1%	60,731	103.3%	56,237	97.1%	65,220	99.2%			
	処理重量	2,273.2	101.5%	206.9	99.9%	181.4	102.1%	167.3	95.7%	195.4	98.3%			
	※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」													
	2. 輸入		(1) 財務省1月23日公表の貿易統計によると、令和6年12月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲2.1千ﾄﾝの49.9千ﾄﾝ、国別ではブラジルが前月▲1.4千ﾄﾝの34.3千ﾄﾝ、タイが▲0.5千ﾄﾝの14.9千ﾄﾝとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は1月が50.9千ﾄﾝ(前年比93.1%)、2月は45.3千ﾄﾝ(同81.7%)となっている。食料品全般の値上がりや消費者の生活防衛意識の高まりなどから、比較的安価な輸入鶏肉の需要が増加することを見越し、積極的に在庫を抱えている業者もあるようだ。また、主要輸出国であるブラジル・タイの国内需要の高まりに加え、中東方面の需要も高まっていることから、輸出国での余剰感はあまり無い。ただし、不透明な為替動向や中国のブラジルからの輸入量が自国の生産が順調であることが影響し減少しているため、他国の輸入状況次第では状況が変化する可能性はある。	輸入動向										
			単位:千ﾄﾝ、%											
品名			鶏肉			調製品			合計			比率		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品			
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0			
R6年累計	639.2	584.9	109.3	503.2	478.0	105.3	1,142.4	1,062.9	107.5	56.0	44.0			
R6年8月	56.7	56.0	101.3	39.8	40.4	98.6	96.5	96.3	100.2	58.8	41.2			
R6年9月	49.1	48.4	101.6	39.9	40.8	97.7	89.0	89.2	99.8	55.2	44.8			
R6年10月	62.3	47.8	130.4	47.9	44.4	107.9	110.2	92.2	119.6	56.5	43.5			
R6年11月	52.0	39.2	132.6	46.2	46.6	99.1	98.2	85.8	114.4	52.9	47.1			
R6年12月	49.9	51.0	97.9	45.6	44.3	102.9	95.5	95.3	100.3	52.3	47.7			
※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」														
家計消費	1. 家計消費		(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年12月の生鮮肉消費(購入)は数量4,698g(前年比94.4%)、金額8,895円(同102.4%)と、重量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,801g(同95.5%)・金額1,993円(同102.2%)・単価110.7円/100g(前年同月+7.2円)と、数量は前年を下回ったものの、金額・単価は前年を上回った。これは鍋物需要等から購入単価が高いモモ肉に需要が集中したことに加え、量販店の店頭売価が上がったことが影響していると予測する。調理食品が金額17,078円(同103.2%)、外食が16,882円(同104.5%)となっている。畜産の購入数量は牛肉・豚肉・鶏肉いずれも前年を下回ったが、金額はいずれの畜種も上回る結果となった。輸入品含めた高騰が続いたことから数量は減少したと予測する。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインパウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。	鶏肉の消費動向						相場(年別・暦年)		単位:円		
			単位:グラム、円、%											
			履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		モモ肉	ムネ肉	計	
	R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8	H29年	626	315	941			
	R6年平均	1,552	1,495	103.8	1,586	1,547	102.5	H30年	595	282	877			
	R6年8月	1,399	1,363	102.6	1,427	1,411	101.1	R元年	585	243	828			
	R6年9月	1,526	1,424	107.2	1,467	1,487	98.7	R2年	614	269	883			
	R6年10月	1,584	1,502	105.5	1,595	1,587	100.5	R3年	641	313	954			
	R6年11月	1,586	1,508	105.2	1,629	1,569	103.8	R4年	662	348	1,010			
	R6年12月	1,801	1,885	95.5	1,993	1,950	102.2	R5年	730	395	1,125			
※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)										R6年	655	369	1,024	
量販・卸	2. 量販・卸		(1) 一般社団法人全国スーパーマーケット協会の販売統計調査によると、令和6年12月の食品売上高は全店ベースで前年比104.8%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同105.2%、既存店ベースは同104.2%となった。また、畜産部門の売上高は約1,523億円で全店ベース同103.1%、既存店ベース同102.0%となった。同社が取りまとめたスーパーマーケット景気動向調査によると「引き続き牛肉や輸入肉の相場高が継続するなか、豚肉や鶏肉を中心に好調となった。牛肉は、年末にブランド牛に動きもみられたが、切り落としや小間切れなどが販売の中心となり、ステーキや焼肉関連は不振が続く。スライスやしゃぶしゃぶ用の国産豚肉は回復傾向がみられたが、鍋関連は水産へのシフトを指摘するコメントも。鶏肉は鳥インフルエンザの動向を懸念する声が聞かれた。加工肉は高値傾向で不振が続いている。」とコメントがあった。消費者の節約志向は高いようだ。	在庫状況(推定)										
			単位:千ﾄﾝ、%											
			履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
	R6年8月	35.1	32.0	109.7	137.9	133.3	103.5	173.0	165.3	104.7				
	R6年9月	33.2	30.0	110.3	136.5	132.5	103.0	169.7	162.5	104.4				
	R6年10月	32.2	29.8	108.2	141.1	130.9	107.8	173.3	160.7	107.9				
	R6年11月	30.8	30.9	99.7	139.3	120.0	116.1	170.1	150.8	112.8				
	R6年12月	29.6	33.6	88.1	134.9	115.7	116.7	164.5	149.2	110.2				
	※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」													
	業務・加工筋	3. 業務・加工筋		(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和6年12月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比95.6%の4.2千ﾄﾝとなった。うち国内品は同104.0%の3.4千ﾄﾝと前年を上回り、輸入品については同69.0%の0.7千ﾄﾝと前年を下回った。	出回り量(推定)									
単位:千ﾄﾝ、%														
履歴				当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R5年累計		1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2				
R6年累計		1,721.2	1,689.0	101.9	619.9	606.3	102.2	2,341.1	2,295.4	102.0				
R6年8月		130.4	132.3	98.6	52.4	52.2	100.2	182.8	184.5	99.0				
R6年9月		137.9	137.7	100.1	50.5	49.2	102.7	188.4	187.0	100.8				
R6年10月		148.6	145.8	101.9	57.7	49.4	116.9	206.4	195.2	105.7				
R6年11月		145.7	145.7	100.0	53.8	50.1	107.2	199.4	195.8	101.8				
R6年12月		155.6	152.7	101.9	54.3	55.3	98.3	209.9	208.0	100.9				
※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」														
令和6年12月	1. 令和6年12月		(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の12月末時点推定期末在庫では国産29.6千ﾄﾝ(前年比88.1%・前月差▲1.2千ﾄﾝ)、輸入品134.9千ﾄﾝ(同116.7%・同▲4.4千ﾄﾝ)と合計で164.5千ﾄﾝ(同110.2%・同▲5.6千ﾄﾝ)となった。	相場(月別)										
			単位:円、%											
			品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計				
	履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
	R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0				
	R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4				
	R6年平均	655	730	89.7	369	395	93.4	1,024	1,125	91.0				
	R6年10月	652	649	100.5	379	369	102.7	1,031	1,018	101.3				
	R6年11月	690	673	102.5	392	374	104.8	1,082	1,047	103.3				
	R6年12月	730	691	105.6	404	377	107.2	1,134	1,068	106.2				
R7年1月	745	701	106.3	403	377	106.9	1,148	1,078	106.5					
R7年2月	(740)	682	108.5	(395)	369	107.0	(1,135)	1,051	108.0					
R7年3月	(730)	661	110.4	(395)	364	108.5	(1,125)	1,025	109.8					
※()は見通し														